

令和5年度病害虫発生予察情報 発生予報第8号(9月)

令和5年9月13日
発表：福島県病害虫防除所

1 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)	
	褐斑病	中通り	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は中通り北部では平年並(±)、 中通り	本病の発生が多い場合は、晩生種に対し薬剤散布する。 本病原菌は主に罹病落葉で越冬するため、発生園では落葉を適切に処分し、菌密度低下を図る。
		中通り	—	やや多い	南部及び会津では平年よりやや高	
		南部	—	やや多い	かった(+) 。	
	会津	—	やや多い			
	炭疽病	全域	—	平年並	果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	本病の発生が多い場合は、晩生種に対し薬剤散布する。また、被害果は見つけしだい摘除し適切に処分する。
すす点病・すす斑病	全域	—	平年並	果実での発生ほ場割合は、平年並であった(±)。	本病の発生が多い場合は、晩生種に対し薬剤散布する。	
ハマキムシ類	全域	—	平年並	新梢、果実での被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。		
モモ	せん孔細菌病	中通り	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	天候に注意しながら秋期防除を必ず実施する(令和5年8月29日付け令和5年度病害虫防除情報(モモせん孔細菌病)参照)。
	ハマキムシ類	中通り	—	平年並	新梢での被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
ナシ	黒星病	全域	—	平年並	新梢葉、果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	翌年の芽基部病斑の発生を抑制するため、りん片生組織の露出が多くなる10月上旬～11月上旬頃に秋期防除を実施する(令和4年度普及に移しうる成果参照)。 本病原菌の越冬密度を下げるため、落葉は丁寧に集めて適切に処分するか、乗用草刈機を用いた粉碎処理を行う。
	ハマキムシ類	全域	—	平年並	新梢、果実での被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。	

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

リンゴ	■腐らん病 腐らん病の発生が認められる場合は、各品種の収穫直後に特別散布を実施しましょう。 また、病患部を見つけしだい、枝腐らんについては健全部を5 cm以上含めてせん除し、胴腐らんは周囲の健全部まで5 cm広く削り取り、塗布殺菌剤を塗布します。なお、せん除または削り取った病患部は園地内に放置することなく完全に処分してください。
ナシ	■ナシヒメシンクイ 本年は高温で推移しており第6世代幼虫による果実被害が懸念されるため、果実被害が目立った園では、ナシ晩生種に対し追加防除を検討してください。
果樹共通	■ハマキムシ類、ナシヒメシンクイ、カイガラムシ類、ナミハダニ 樹上越冬害虫については、密度低下を図るため9月下旬頃に麻袋や肥料袋などを枝幹部に厚く巻き付けてバンド誘殺を行い、翌2月上旬に取り外して適切に処分してください。

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。